



新興感染症に対応可能な看護体制の構築 —SUB ICN を導入して—

福井県立病院

福井県福井市

759床／職員数 1,111名（うち看護職員数752名）



課題・背景

- ①新型コロナウイルス感染拡大によるマンパワー不足に対し、各部署から日替わりに応援看護職を増員
 - 新型コロナウイルス感染症患者専用病棟（以下コロナ病棟）と重症者用コロナHCUを設置
- ②応援看護職が日々入れ替わるにより多職種（コロナ病棟看護師、応援看護職、医師、感染管理認定看護師（以下ICN*））の業務が煩雑化し、安全・安心な看護が提供できていないのではという危惧が生じた

ICN*：Infection Control Nurse：感染制御看護師

目的・目標

第一種・第二種感染症指定医療機関としての役割を果たす

- ①日替わりであった応援看護職を固定化する
- ②SUB（サブ）ICN*の役割機能を明確化する
- ③SUB（サブ）ICNの知識・技術を向上する

▶ 応援看護職の固定化と役割機能を明確化にし、新興感染症に対応可能な看護体制を構築する

SUB ICN*：固定化した応援看護職と、コロナ病棟に配置している看護職を新興感染症に対応可能な看護職として名付けた名称

取り組み内容

取り組みの流れ



■ 新興感染症に対応可能な看護体制

	平時	感染拡大時
固定化した看護職	各部署で勤務し、感染管理の中心的な役割を担う	中等症用コロナ病棟に即時招集し、看護の初動体制をとる
コロナ病棟の看護師	通常患者用HCUで勤務	通常患者用から重症コロナ患者用にスイッチしたHCUにおいて即時対応

■ SUB ICNの知識・技術向上

SUB ICN研修年間カリキュラム（計20時間30分）

研修月	研修時間	研修内容
2022年6月	1時間30分	ICDによる勉強会
7月	1時間30分	コロナ病棟オリエンテーション及びシミュレーション
8月	1時間30分	搬送シミュレーション（発熱外来・救急外来・CT室・手術室・透析室）
9月	1時間30分	各病棟でコロナ患者が発生した場合の対応シミュレーション
10月	1時間30分	感染症法の分類と院内における対応について（第一種、第二種感染症病床、ゾーニング部署見学）
11月	1時間30分	県地域医療課 感染管理認定看護師による行政・保健分野との連携について講義
7.10.11月のいずれかの月	7時間45分	人工呼吸器装着患者対応研修（1日研修）
12月	1時間30分	院内での活動と感染予防対策について
2023年1月	1時間30分	メンタルセルフケアについて（講師：精神看護専門看護師、内容：講義後、グループワークでコロナ病棟で勤務する思いを共有）
2月		各部署で防護具着脱・感染予防の注意点について指導する修了テスト（Web上で各自受験。70点以上で合格）
3月	45分	活動報告会 看護部長より、修了証授与

SUB ICN研修の様子



成果・効果

①業務の削減

- 防護具の着脱指導 一人当たり 15～20分 ➡ **0分**（SUB ICN研修で実施）
15分 × SUB ICN 22名 = **330分**の削減

②1つの業務に要する時間の短縮

- 申し送り時間 約50分 ➡ **約30分**
- ICNへの休日・夜間を含む相談の頻発 ➡ **5件/月**以内に減少

③看護職の身体的・精神的負担の軽減

- ・看護職同士の会話が増え、協働して業務を実施できた
- ・患者のケアについて話し合う機会が増え、個別性に合わせたケアの提供ができた
- ・SUB ICN研修でメンタルセルフケアや定期的な簡易ストレス度チェックを行った結果、メンタル不調による勤務変更はなかった

④看護師間でのチーム連携の向上

看護職のペア間だけではなく、他のペアとの協力体制の強化

- ・様々な話し合いによりアイデアが生まれた
- ・インシデント情報をさらに積極的に共有できた
- ・入院患者数や患者の重症度によって看護職の招集がスムーズになった

⑤他職種の満足度の向上

医師からの感謝の言葉の増加

⑥感染管理認定看護師を目指す看護師の増加

2015～2021年 0名 ➡ 2022～2024年 **3名**（2023年12月時点）